

令和 3 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和 3 年 7 月 15 日（木）14：00～16：00

場 所：Web（Zoom）会議のため、各施設にて

出席者：10 名

仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、傳道聡子（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、金城美奈子（県立宮古病院）、眞喜志好枝（県立八重山病院）、島袋百代（ハンキョウ・ジャパン沖縄アフェリエイト）、樋口美智子（沖縄国際大学）、小波津真紀子（沖縄県保健医療部）、増田昌人（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）、

陪席者：3 名 糸数真理子（那覇市立病院）有賀拓郎（琉球大学病院）、石川千穂（琉球大学病院事務）

【報告事項】

1. 令和 3 年度第 1 回情報提供・相談支援部会議事要旨

資料 1 に基づき、傳道委員より、令和 3 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

2. がん患者ゆんたく会（4～6 月）

令和 2 年 4～6 月のゆんたく会開催状況について報告があり、県立中部病院では開催は出来ていないとのことだった。院内の状況も厳しいこと、また、これまで参加頂いていた方に対して、オンラインでの開催を希望するかの確認と、院内の体制を確立するという課題が解決していない状況とのことだった。那覇市立病院も開催なしで、現状、目処もたっていないとのことだった。中部病院と同じく、オンライン開催の方法について、話し合っている段階との報告だった。琉大病院は 4 月 5 日に対面開催があった。病状が厳しく、気が滅入りがちだったが、直接話が出来たことで元気が出た等の感想もあり、対面ならではのぬくもり感のある、良い機会であったようだったとのことだった。

3. がん相談件数（4～6 月月）

資料 3-1～3-6 に基づき、令和 3 年 1～3 月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。北部地区医師会病院からは、4 月～5 月の相談件数に関する資料提出があり、両月とも通院治療するための介護保険など、社会支援の案内が多かった。6 月は入院患者さんの退院調整が多くなっているとのことだった。中部病院における相談内容で多かったのは、不安・精神的苦痛、ゲノム医療、受診方法、セカンドオピニオン、在宅医療、看護等だった。院外からの相談では、コロナ禍の影響で、面会制限があるので、退院後の不安等に対する、病院との連携に関する情報提供も行ったとのことだった。那

覇市立病院では、4月にホスピスや緩和ケア、不安や精神的苦痛、告知に関する相談が特に多かった。8月からは項目の統一をして提出予定とのことだった。宮古病院では、他施設で治療を受けている患者さんで、新聞で相談支援センターのを知り、宮古病院で出来る治療の確認や、家族に病名を伝えられないという内容の相談を受けた。乳腺外来の応援が本島から来ているが、病理結果がでるまでの2週間程度の期間、不安があったという患者さんがいたので、今後、早い段階で介入できれば、とのことだった。八重山病院では、今年度4月から、がん相談員2名と緩和ケア認定看護師3名で、がんの終末期の訪問診療を担っているとのことだった。年度末、年度始め時期、転勤や退職者などで職員の交代が多かったため、がん疑いで入院や手術を受けた患者さんの情報が相談員までつながる前に、患者さんが退院したケースがいくつかあり、患者さんの情報把握に難儀しており、今後どのように拾い上げるかということが課題となっているとのことだった。また、2回目以降の相談で、初回の相談で渡したがんサポートハンドブックを見たということで質問を受けるケースが増加しているように感じたとのことだった。琉大病院では今期は、相談員1名体制で対応している。在宅療養を続けるための相談が増えているとの報告があった。他施設からの相談が他病院と比べて多い傾向だが、内容としては、琉大での受診を考えていること、ゲノム医療に関する問合せ、誰かと話したい、再発、医師との話に備えて情報収集したい、等があった。

4. がん相談件数集計（4月～6月）

4月～6月の相談件数集計について紙面にて報告された。大久保委員より、相談件数の大項目・小項目の分類に関する訂正の再依頼があった。また、今回の報告から、がん相談支援センターが訪問診療や退院支援にも関わりが出てきていることから、今後支援センターの活動形態も変わってくるかもしれないので、職員配置に関しても今後情報提供して頂ければとのことだった。

5. 地域統括相談支援センター活動報告

傳道委員から、資料5に基づき代理で報告があった。4月19日に相談員ミーティング、6月30日にオンラインゆんたく会が開催され、オンラインゆんたく会ではNPO法人ピンクパンサーとの交流・情報交換が行われた。操作方法やネット環境の課題もあるが、コロナが収束した後もネットを使用することで離島と北部地区とも相談が切れ目なく行われるとの意見があった。地域統括(ピアサポーター)からの委員委嘱については調整中ということだった。

6. がん相談支援センターの広報

資料6に基づき、がん相談支援センターの広報に関する報告があった。「ほーむぷらざ」では、緊急事態宣言が明けるまでは情報コーナーはお休みとのことだった。引き続

き広報を依頼する。

【協議事項】

1. 部会委員の非拠点からの選定について

大久保委員より、専門病院と小児からの選定ということだったが、専門病院については選定の優先事項を検討中で、委嘱につながっていないとの状況報告があった。また小児に関しては、調整を行っていたタイミングで、小児・AYA 部会から「小児がん相談支援マニュアル改定」について部会で取り上げてほしいとの要望があったので、マニュアル改訂の WG メンバーとして小児関係者に参加頂くことを検討しているとの報告だった。

2. 令和3年度部会計画（各施策）

(1) がん相談員実務者研修会について

資料8-1に基づき、琉大病院が8月28日に、那覇市立病院が12月11日に開催ということで検討されているとの報告があった。中部病院の候補日は10月9日で、「コロナ禍におけるがん患者支援を考える研修会」を検討・講師依頼中とのことだった。

(2) 今年度の相互評価訪問のスケジュールについて

大久保委員より、中部病院、那覇市立病院、琉大病院に関しては、昨年の実施からあまり期間があいていなので後回しにし、未実施の北部地区医師会病院、宮古病院、八重山病院から行うのはどうかとの提案があり、相談員研修会開催月以外の、9、11、1、2、3月でスケジュールを組むことが決定した。部会委員の都合のつく候補日を挙げた後、その中から各病院長の日程調整を行い、希望日程決定後、各病院から事務局に報告することとなった。

(3) 相談支援センターへの立ち寄りルートについて

大久保委員より、初診時からの相談支援センター利用促進に関する資料の提供があり、その中で、相談支援センターの利用につなげるために琉大病院がおこなった内容が紹介された。各病院で行った試みを集約するために、大久保委員が報告時に提示したフォーマットに9月中に書き込んでもらい、次回以降も検討を続ける事となった。

(その他) 小児がん相談支援マニュアルの改訂について

小児・AYA 部会から発案があった、小児がん相談支援マニュアルと患者用マニュアルについての改訂について、増田委員より、代理で提案があった。小児がん相談支援マニュアルについては、改訂の為の WG の立ち上げを承認し、そこで協議を進めて頂く

ということになった。第1版末尾に記載のある、前回の作成に関わった委員を、今回も委員候補とする他、チャイルド・ライフ・スペシャリストにも参加頂ければとの提案もあった。WG 委員候補への依頼は事務局から行う。

(その他) ロジックモデルについて

増田委員より、当日資料として、情報提供・相談支援部会担当のロジックモデルのたたき台が提案された。ひと月程度後に、第3回目の部会を開催し、ロジックモデルについて重点的に協議することとなった。また事前に、ロジックモデル案の募集を行う。案の集約方法については、事務局の方で、委員全員で供覧・書き込みができるボックス(Excel 表)を google ドライブで作成し、その URL を後日送付することとなった。

次回開催について

第3回部会(ロジックモデルに重点をおいた)の開催候補日は、メールでアンケートを行う。ロジックモデルに関してではない、通常部会は10月14日(木)14時からとなった。